



三春中学校だより

第 24 号

発行日 令和 元 年 8 月 8 日

発行所 三春町立三春中学校

電 話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【三春中学校区学校保健委員会開催！ ～連携して健康教育上の課題解決を図りましょう。～】

8月7日（水）に、三春中学校区の小・中学校が連携し学校の健康・保健教育推進・充実にむけ話し合う『三春中学校区学校保健委員会』を開催いたしました。それぞれの校医の先生や学校薬剤師の先生、教育委員会、小学校の校長先生や養護教諭・保健主事・食育コーディネーターの先生方、本校PTAからは先日の環境整備作業でもお世話になりました厚生委員長さんにご多用の中ご足労いただいたの開催となりました。

全体会では、本校養護教諭より三春中学校区の健康診断結果や肥満・痩身、歯科検診結果などについての概要を説明し、その後、『歯科・生活習慣』部会、『肥満・痩身、食育・運動』部会、『ノーディスプレイ運動、時間・余暇の活用』部会の3つの分科会に分かれ各校の健康・保健教育推進上の課題などについて話し合いました。

『歯科・生活習慣』部会からは、『虫歯・未処置なし』が増えてきたこと、受診率の低さは相変わらずということ、歯科の専門的指導のもとでの個別の歯磨き指導が大切なこと、歯列咬合は将来の健康維持にむけよく噛みよく食べるために必要なこと、規則正しい生活や歯磨き、うがい、手洗いなどの基本的な生活習慣の確立とフッ化物洗口の取組を今後も各校において充実させていくことなどの報告がありました。

『肥満・痩身、食育・運動』部会からは、肥満・痩身などについてそのリスクをきちんと伝えるなど、家庭への伝え方を工夫することで指導の有効性について共通理解・実践を図っていくこと、過度なダイエットなどは逆効果のためバランスを考えた食事の在り方について伝えていくこと、三春中学校の『食育』への取組を各小学校においても活用していくと共に、三春町全体での取組についても検討していきたいということが報告されました。

『ノーディスプレイ運動、時間・余暇の活用』部会からは、チェックシート・カードの工夫によりノーディスプレイ運動の必要性について意識化が図られてきている一方で、形骸化の心配もあるため、さらに家庭との連携をめざしたチェックシート・カードの工夫が必要なこと、ノーディスプレイの必要性を継続してお知らせし、できるだけすべての家庭に伝わるよう努めること、自己マネジメント力は将来に生きる人間にとって欠かせないものであり、意識して育てていかなければならないこと、ゲーム等による近視の低年齢化がみられることなどの報告がありました。

結びの全体会では、校医や薬剤師の先生方お一人おひとりから指導助言をいただきました。寿命100年時代を見据え、個別の指導も含めて継続した健康・保健指導を展開したい。関係機関との連携も大切である。家庭間の横の連携を意識し、地域の集まり、地域行事等への参加、地域コミュニティの活性化に努めたい。日常生活の延長上に疾病がある。オーダーメイドのブラッシングを心がけるなど、生活習慣の確立をめざしたい。受診率の低さにはさまざまな要因があり、学校だけでは限界があるので、地域や政治に期待する部分もあってもよい。肥満・痩身に関する受診はあまりない。将来のリスクを見越して専門家を交え指導し見守っていききたい。などのお話をいただきました。

三春中学校区の小・中学生が、基本的な生活習慣を身につけ、SNSには時間と場などの自己管理のもと節度をもって接し、地域コミュニティの一員として積極的に関わり、バランスのよい生活と食事を心がけ、心身共に健康な生活が将来にわたって過ごしていけるようこれからも連携して取り組んでまいりたいと思います。



【東北柔道大会へむけて！ ～三春町、鈴木町長様より激励をいただきました。～】

先に行われた柔道の県中体連大会を3位で勝ち上がり、東北大会の出場権を得た本校柔道部の1年生が、8月7日（水）に三春町役場を訪問し、町長様より激励をいただきました。

お父さんと一緒にやや緊張気味で町長室に入室し、最後までその緊張は解けないように見えたが、町長様より激励のお言葉をいただき、東北大会への決意を新たにしていたようでした。

町長様よりは、競技においてがんばることはもちろんだが、現在の社会は頭のよさと共に強い心の持ち主を求めている。部活動を通して強い身体とへこたれない心を育ててもらいたいという趣旨の励ましをいただきました。

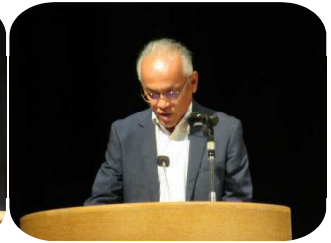
東北大会は、青森市を会場に、8月9日（金）から11日（日）まで行われます。三春中学校、三春町、そして、福島県の代表として、その健闘を心より祈ります。



【家族と共に、家族を支えるために！ ～特別な支援が必要な子どもと家族を支える。～】

8月2日（金）は、三春町教職員研修会の日でした。今年度は、『特別な支援が必要な子どもと家族を支えるために』～伝える力をアップしよう～と題して、アナウンサー、自閉症スペクトラム支援士、一般社団法人「発達障がいファミリーサポートMarble」代表理事、三鷹市発達障がい児親の会「モンブランの会」会長と、たくさんのご活躍をなされている国沢真弓先生を講師にお招きしての講演会でした。日頃、学校等において指導にあたっている先生方にとって、共に学び、共に生きるという共生社会の実現のため、特別な支援を必要とする子どもたちやご家族の立場等について理解することはとても大切なことでもあります。

高橋正美教育長様、佐藤千昭三春町教育協会長・中郷小学校長様のごあいさつの後、いよいよ国沢真弓先生のご講演が始まりました。とても勉強になるご講演であり紙以上に報告いたします。



『特別な支援が必要な子どもと家族を支えるために』 ～伝える力をアップしよう～

1 『発達障がい』とは？

発達障がいは、自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動性障がい、学習障がいなどがあり、生まれつきの脳の機能障害で、原因は不明、基本的には一生治らない障がいです。

人と上手に付き合えない、コミュニケーションがうまくとれない、想像力が乏しい、こだわりがある、感覚過敏がある、場の空気が読めない、言いたいことを言いたいときに言ってしまう、切り替えが苦手、感情のコントロールが苦手、多動性があるなど、誰にでもある特性が特に目立つ子たちであります。その特性は日常生活に支障が出るくらい色濃く出ると診断名につながります。



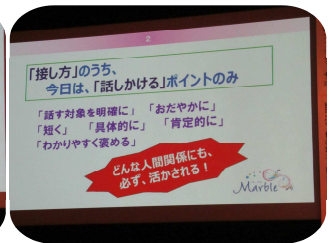
2 どう接したら？

接し方の『引き出し』を増やすことが大切です。

「話しかける」時のポイントとしては、話のはじめに「〇〇さん。」と言うなど『話す対象を明確に』、強く言うと話の内容にまで注意が行かないので『穏やかに』、理由などくどくど言わずに『短く』一つずつ伝え、「何」「いつ」「どこ」「誰」「どれ」という情報を明確に『具体的に』、「廊下は走らない。」ではなく「廊下は歩きます。」と『肯定的に』、よい行動をしたときにはすかさず『わかりやすく褒める』です。

このことは、発達障がいの人に限らず、伝わりにくい『あの人』にもこの方法を試してみてください。どんな人にも、どんな人間関係にも活かされるものであり、暗黙の了解などというものよりずっと伝わるはずですよ。

発達障がいをもった子どもたちは、決して『困った子』ではなく、『困っている子』なのです。他の子と“同じ”を求めればその子のコンプレックスを強めることにもつながりかねません。理解をしてくれる人が一人でも増えれば、その子の居場所が増えてきます。温かく見守っていただければと心より思います。



(次号に続く)